

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700319		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころ 1F		
所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293-1		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果市町村受理日	平成22年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地と豊かな自然環境の中で、利用者は毎日、日光浴・散歩など自由にゆったりと日々を過ごしている。
また地域の一員として交流を深めている。

事業所として特に力を入れていることは、利用者の有する力を最大限に生かし、本人の思いを尊重してその人らしい生活をマネージメントするよう心がけて支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700319&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年7月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域貢献をしたいというオーナーの思いから母体法人内で一番早く設立された。自然豊かな環境に恵まれ、敷地内には、駐車場を挟んで同一法人の系列のグループホームがあり、日常的に交流できる環境である。広い畑や庭園があり、四季の変化を感じながらゆったりと過ごせる支援に努めている。また、日常的な外出と共に毎月のようにドライブも行い、利用者の楽しみごとを多くし、健康維持と自立支援に努めている。職員と利用者の中で信頼関係を構築しており、利用者一人ひとりが自由に過ごしている。また、公共機関が近隣にあり、連携や利用が日常的に行える。中学校の体験学習も受け入れ、事業所の機能を活かして地域との関係づくりにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を職員全体で話し合っている。 毎朝のミーティングで事業所の理念を声を出して読み職員間で共有し、毎日のケアに反映させている。	「ありのままに、ゆとりと安らぎのある暮らし」という法人の理念を基本に、事業所独自の理念を朝のミーティング時に唱和し、職員全体で共有し、実践の中で活かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住人の一員として町内会や地域の行事には積極的に参加している。 日常的に散歩や買物に出かけ挨拶を交わしたり会話をしたり触れ合う機会を作っている。	地域の行事や小学校の運動会等への参加、ボランティアによる演芸やセラピー犬の支援等、地域と触れ合う機会を支援し、中学校の体験学習も受け入れている。散歩や買い物時に挨拶を交わしたり、知人も訪れるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや学生の総合学習(福祉)の受け入れを行なっている。 認知症に対する理解や接し方、ケアの啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動を報告するとともに、現在取り組んでいる課題を話し合い、意見や要望を受け地域の理解と支援を得るよう働きかけ、ケアに生かしている。	運営推進会議は、利用者、利用者家族、町内会長、行政職員が参加し、年6回開催している。ケアの実践状況等、日々の活動を報告し、地域の支援が得られるよう働きかけ、意見や要望を活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に出席して頂いています。事業所の実情やケアサービスの取り組み等を伝えたり、情報やアドバイスをいただいています。介護保険の窓口とは常に連絡を取っている。	ケースワーカー及び介護保険課とは日常的に接する機会が多く、事業所の実情を伝え、アドバイスを得たり、様々な情報提供を受け、協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。職員の見守りを徹底し施錠しない自由な暮らしを実現している。 また家族には事業所の方針を説明し納得してもらっている。	ミーティング時やスタッフ会議で話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠せず、外出願望のある利用者には、見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについて日頃から話し合っている。また研修会にも参加し、高齢者虐待防止法を勉強している。 全職員が周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学んでいる。また全職員に説明して理解を深めるよう努力している。現在まで事業所は成年後見制度が必要なケースは無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面と口頭で丁寧に説明している。利用者側の立場に立って不安に思う事や疑問に答え安心して入居してもらうようしている。またリスクについても説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族には意見や要望を気兼ねなく言えるように日頃からいい関係作りに留意している。また手紙や訪問された時に問かけ多くの意見や要望を出して貰えるよう配慮している。	日常的に来訪する家族も多く、機会を捉えて意見や希望を聞くよう心がけている。また、職員は常に笑顔で家族が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。外部の窓口も重要事項説明書に提示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に職員の意見や要望を聞いている。また、ミーティングや利用者との関わりの中で職員の気付きやアイデアを取り入れ、ケアに生かしている。	日々のケアの中で気づいた事はミーティング時に話し合うと共に、月1回のスタッフ会議で意見やアイデアを共有する機会があり、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に添って、労働条件を整えている。資格取得を支援し、本人の意向を重視し、向上心を持って働けるよう努めている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、気分転換できる休憩室を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に応じ、外部の研修に参加受講出来るように配慮している。研修報告は職員会議等で報告してもらい、全職員が学べるように取り組んでいる。新人にはマンツーマンで指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しており、勉強会、研修会、講演等に参加し、知識を深め他の事業所と意見を交換しサービスの質の向上に励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事前に面会し、困っていること不安に思っていること、今後のことについて耳を傾け、安心して貰えるようにする。今までの生活状況、心身の状態を把握受けられるように信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在に至るまでの苦労や困って居ること不安に思っていること、今後どのような支援を望んでいるのか等聞き、事業所としての対応等話し、安心してもらうよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時は、可能な限り柔軟に対応するが、事業所での対応が無理な時は他の事業所のケアマネージャーと相談し他のサービスにつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場に立って、喜び苦しみ不安を共感し、一緒に生活することにより、共に分かち合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子をお便りや来訪時に伝え、情報の共有を計っている。家族と職員が共に利用者を支える為協力関係を築いていくことを理解してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々知人や友人が訪問され、楽しそうに会話されています。いきつけの美容院や買物に出掛けたり、顔見知りの人に会えば、近況など話されたりしています。これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	利用者の日課となっている散歩や買い物に出かけた時や地域のイベントの時に顔見知りの人と話したり、知人が来訪したり、行きつけの美容室に行くなど、馴染みの関係に配慮した支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事の時など職員も一緒に多くの会話を持つようになっている。また、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移る時は、これまでの暮らしが継続されるよう生活環境・支援の内容、注意すること等情報提供しているが、サービス終了後は継続的に係ることは少なくなってしまう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向の把握には一番心がけている。日々の係りの中でそれとなく本人に確認している。意志の疎通の困難な人には家族から情報を得るようにしている。	家族からの情報や日々の会話の中で、一人ひとりの意向を確認したり、表情や行動、しぐさを通して思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族に生活歴や今までの暮らしの情報を伝えてもらい、支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調や心理状態を総合的に見極め、今日出来ることに注目しその人らしく一日を過ごして貰っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を取り入れ、利用者主体の暮らしを重視し、介護計画を作成している。全職員でアセスメントを行い、意見を反映させている。	ケアの中での気づきを基に、全職員で話し合い3ヶ月に1度介護計画を作成している。家族の来訪時に希望を聞き、来訪できない家族には介護計画案を送付し、意見を反映するよう取り組み、関係者全体で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、水分量、排泄、バイタルチェック等、一日の生活の様子、本人の言葉、職員の気づき等、細かく記録し共有し、ケアや介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、美容院、買物、送迎それに伴う介助、付き添いなど必要な時に必要なサービスを提供している。利用者や家族が安心して暮せるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活出来るように、民生委員、町内会警察などに協力を呼びかけている。また訪問理容、地域の図書館等利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。家族が対応できない時は、事業所で対応している。その他、事業所の協力医等複数の医療機関と関係を密にしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。家族の状況により事業所が受診支援を行ったり、必要に応じて職員が家族と同行することもある。医師とは相互に情報提供を行い、適切な医療受診につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護ステーションの看護師も確保していませんので、体調や表情の変化も見逃さないようにして、かかりつけ医や指定病院に相談しながら、適切に医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、医師や看護師と密に連絡をとり、事業所内で対応可能な段階で早期退院できるよう、病院関係者や家族と相談し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した時、事業所が出来る最大の支援について、十分に説明し、本人・家族に了解してもらっている。	利用者の利用開始時に、終末期の対応について事業所の限界を口頭で説明しているが、重度化や終末期の対応の指針の作成及び段階的な対応等についてチームで共有するまでには至っていない。	重度化や終末期の対応指針を作成し、早い段階から本人、家族、医師、及び関係者と方針を共有しチームで支援できる体制に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を依り救急救命、蘇生術等の実施講習を受けている。全職員が対応できるようにしている。夜間はマニュアルを作成し、周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回、利用者と一緒に非難訓練を行なっている。避難経路の確保、消火器の使い方など全職員が周知している。地域の協力は町内会などをお願いしている。	消防署の協力の下、救命救急講習や利用者と共に年2回避難訓練を行っている。スプリンクラーを設置し、火災への対策も行っているが、災害時の地域の協力体制は整っていない。	運営推進会議を通して町内会の協力を依頼し、秋に向けて地域住民と共に避難訓練を行うことを検討中である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い大声でのトイレ誘導、否定した態度利用者の誇りプライバシーを損ねないよう、職員間で日常的に確認している。	言葉遣いや声のトーンに気を付け、利用者の自尊心を尊重した関わりに努め、否定した言葉や態度にならないようスタッフ会議などで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を望んでいるのかを把握し、表現しやすく又自己決定出来るように支援する。意思表示の難しい人にはジェスチャーやカードで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調に配慮し、本人の希望に添って、個別支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本的に本人の意向に添って決めている。行事の時はお化粧品やおしゃれを楽しんでもらうよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューに添って、それぞれの能力に合わせ、お手伝いして貰っている。職員は利用者と一緒に食事をし、楽しい雰囲気です。食事を大切にしている。	一人ひとりの能力に合わせ、食事の準備や後片付け等を役割として行っている。畑で採れる新鮮な野菜も卓上に上り、職員や利用者同士が共に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録し、一日の必要量を確保されているか、確認している。食事が摂れない人には、食べやすい物、好物等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、清潔保持に努め、口腔体操も取り入れ嚥下機能低下、誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排尿感覚を把握し、サインを見逃さず、トイレの声掛け誘導し、自立に向け支援している。 尿意のない人には昼は綿パンにパット、夜紙パンツなどで、個別対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけプライドに配慮した支援を行っている。また、日中は自立支援に努め、綿パンツで過ごす利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをしている。便秘予防として水分、食事量、乳製品等提供し又軽い運動の声掛けをしている。下剤は何日も無い時のみ使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	設備の関係で、週2回入浴支援を行なっています。一人一人の気持を尊重し、ゆっくり湯に使ってもらっています。シャワー等いつでも自由に出来るよう対応しています。	設備の関係で1階と2階の同時入浴が困難なため、入浴は週2回決められた日程となっているが、シャワー浴は何時でもできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活リズムを整え、夜は安眠出来るように支援している。照明、室温にも配慮している。休息は居室ソファ等自分の好きな所で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人一人の薬の内容を把握するよう個別服薬ファイルを作成している。服薬時は本人手渡しで服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらっています。気晴らしとして、外食、遠出のドライブ等利用者さんと相談しながら、楽しみ事を見つけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って、散歩、外食、ドライブ等積極的に外出支援を行なっています。歩行状態の悪い人も車椅子等で本人に合わせた支援をしている。	決まった散歩コースがあり、利用者は日課のように外出を楽しみにしている。また、近くの公園への散歩、買い物やドライブ、外食、名所見学など、積極的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金は持っている。自分で管理できない人は、預かっているが外出の時など、職員が自分で支払いするように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使える場所に設置してある。電話の時は職員が取り次ぎ、自由に話されている。内容が漏れないよう十分に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節ごとに利用者手作りの作品が飾られ、玄関には庭の花が生けてある。家具の配置は利用者が、活動しやすくされ、不快音や光がないように配慮している。	共有スペースは広く、思い思いの場所で過ごせるよう随所に家具を配置している。壁や玄関フロアには季節を感じる利用者の手作りの作品や行事の写真を飾り、楽しい雰囲気になるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前には皆でくつろげるソファが置かれ、ホールには仲の良い人同士が談話したり、一人でも静かに過ごせるよう椅子とテーブルが用意されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、寝具、仏壇、写真等思い出の品が持ち込まれています。自分の生活に合わせた馴染みの物等が用意され、安心して過ごせるスペースを作っている。	使い慣れた家具や仏壇、家族の写真、趣味の習字などを持ち込み、その人らしい居心地の良い居室となっている。また、各部屋にトイレ、流し台がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で歩けるように、廊下、居室に手すりが付いている。目印等も含め、利用者の現状に合わせ、安全な環境整備に努めている。		